

学校名 屋久島町立一湊小学校

項 目	活動内容等
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	本推薦校は、令和6年度～7年度の2年間、県教育委員会の指定を受け「環境教育」の研究を進めるとともに、本町が推進する屋久島型 ESD(Education for sustainable development)を学校教育活動の中心に位置付けながら全ての教育活動をとおして、一人一人が課題に気付き、考え、協働的に行動できる人となるよう、問題解決への意欲、態度、行動力の育成に当たっていることから、本活動の優良校として推薦したい。
2 受賞候補校等の活動状況等 (1) 活動の動機・頻度 ① 活動を始めた動機及び開始年月	<p>本推薦校は、平成9年に屋外人工ふ化場を設置し、ウミガメの人工ふ化に取り組んできている。これに用いられる卵は隣接校区の永田浜より採卵したものであり、一湊の浜に産卵するウミガメは僅かばかりである。</p> <p>これらのことを知った本推薦校の子供たちは、一湊の浜で産卵するウミガメの少なさについて疑問をもち、絶滅危惧種や環境の変化について知見を深める中で、一湊の浜もかつてはウミガメが多く産卵する砂浜であったことを知り、かつてのような豊かな海を取り戻したいという動機から、自分たちはもとより屋久島町民や観光客の環境保護意識を高め、ウミガメが産卵しやすい浜にすることを目指して「ウミガメを一湊に呼び戻そうプロジェクト」を開始した。</p>
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	ウミガメを一湊に呼び戻そうプロジェクト
③ 月間又は年間活動回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸清掃は各学年それぞれ年2回</li> <li>・ ポスターによる広報活動は年1回</li> <li>・ オンライン交流学習活動は年3回</li> <li>・ シーグラスアクセサリーと海洋ゴミ交換活動は随時</li> </ul>

項 目	活動内容等
④ 活動のエリア	一湊海水浴場，一ツ浜，大浦海岸，高速船乗り場，フェリー乗り場，屋久島空港，屋久島町役場，熊毛支庁屋久島庁舎，屋久杉楼七福
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	40 人（児童 34 人，職員 6 人）
⑥ 活動1回当たりの平均時間	3 時間程度
⑦ 収集物の処理	学習発表会における参加型アート作品の材料として用いたり，アクセサリーを作製したりした。どちらにも用いられなかったゴミは分別し町指定の袋で回収してもらっている。
(2) 活動の独創性 活動の特徴	<p>自分たちで海岸清掃を行うとともに，屋久島町民や観光客の環境保護意識高揚のために，町内各所へのポスターの掲示やパンフレットの作製，オンライン交流での情報発信を行った。また，海洋ゴミ（主にシーグラス）で作製したアクセサリーを，持ち込まれたゴミと交換する取組も行った。これらの取組を令和6年度世界遺産学習全国シェアミーティングにおいて発表し，インパクトを与えた。総合的な学習の時間のモデルケースとして紹介したいとする自治体もあった。</p> <p>これら本推薦校の活動を知った屋久島町内の民間企業から，永田浜の破損した遮光パネルの補修について協力要請があった。本推薦校のみで行うのではなく，屋久島町内の全ての小学校に協力の要請を子供たち自身が行うことで屋久島全体の環境保護への意識を高めようとしているところである。</p>



項 目	活動内容等
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献	海岸清掃活動は、学校のみで行う事もあるが、6月には地域住民とともに清掃を行っている。また、育成会と連携して空ビンの回収を行ったり、一湊地区ボランティア団体と連携してひまわりやコスモスの植え付け及び管理を行ったりしている。
② 地域住民との協力活動	各分野に詳しい地域住民を招聘し、一湊の歴史や地形及び岩石等を学んだり、河川に棲息する動植物を調査したりしている。これらの活動により、一湊地区への愛着を深め、積極的な環境保護への意識を高められている。
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	<p>学習発表会において、「ウミガメを一湊に呼び戻そうプロジェクト」で行ったことや考えたことについての発表を行ったり、観覧者を交えて海洋ゴミアートを作製したりした。屋久島の海岸の漂着ゴミは観光客らによって廃棄されたものはほとんどなく、漂着したもののばかりであるという知識を深め、自分たちや来島者だけではなく、近隣の国や地域あるいは世界全体で取り組んでいかなければならない課題であることを認識するに至った。</p> <p>また、本推薦校の山海留学生はそのまま移住する方も多いものの、関東や九州各県に帰り、屋久島の自然やウミガメ、観光保護のことなどについて児童自身から発信し、日本全体へ環境保護に対する意識を高揚させることが期待される。</p>



項 目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	なぜウミガメは一湊ではあまり産卵しないのだろうという疑問から、一湊に呼び戻したいという願いに発展し、そのための地域を巻き込んだ情報収集能力、得られた情報から意見を発表したり、議論したりする力が身に付いた。さらに、単純に解決できない課題に対して、協働しながらアイデアを出し行動に移すことができるようになった。また、校内の取組に留まらず、社会に参画しようとすることができるようになり、かつ、自分たちだけでできることの限界を知り、自分たちが環境保護の起点となり屋久島のみならず世界全体を巻き込んだ意識の高揚を目指す姿勢が培われた。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	ウミガメの活動を起点として、様々なSDGsの視点について自分たちで学習を進め、水と浄化槽の仕組みと微生物との関わり、屋久島の人口の減少傾向という課題、食事を満足に得られない地域の実態などに触れた。これらの学習によって、環境を保護していきたいという意識のみならず、友達を思いやったり、ともに協力しようとする態度や、ものを大切にしたり、苦手な食べ物でも頑張ってみようとする態度が身に付いてきている。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋久島近海の魚介と漁についての学習</li> <li>・ 夜間、ライトを焚き集まってきた魚の観察</li> <li>・ ウミガメの産卵の見学及び放流</li> <li>・ 屋久島の杉や屋久島の苔、林業・木材加工の学習</li> <li>・ しいたけのコマ打ち体験</li> <li>・ パッションフルーツの受粉及び収穫</li> <li>・ 屋久島の茶生産や加工の学習</li> <li>・ 海や河川での安全な過ごし方</li> </ul>
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか (受賞年月日と表彰機関名)	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	総合的な学習の時間、家庭教育学級、PTA活動等
3 その他特記事項	特記なし



# 屋久島町立一湊小学校 一湊小学校の 屋久島型ESD



## 【重点目標】目指す子供の姿

- ・豊かな自然と屋久島が抱える環境問題を理解し、屋久島の自然環境を守ろうとする意欲をもつことができる。
- ・自分で良さや課題を発見し、良さを広めるとともに、課題に対して行動を起こすことができる。

### 第1段階「一湊はかせになろう」

- 生活科や総合的な学習の時間を活用した調べ学習
- ESDグローバルアドバイザーによる  
出前授業・職員研修

### 第2段階「見る・聞く・触れる」

- 生活科町探検・川海遊び（1・2年）
- ウミガメ学習（3・4年）
- 未来の屋久島へ～環境・生物・地域を守る～（5・6年）

### 第3段階「発信する」

- 学年の発達段階に応じた校外へ向けた  
発信活動（学級便り・ホームページ・  
新聞投稿・オンライン交流等）

## 1・2年

### 生活科と関連付けて

- ① 夏探し
- ② 秋探し
- ③ 秋の宝の地図作り
- ④ 冬探し
- ⑤ 一ツ浜ゴミ拾い
- ⑥ オリジナル衣装作り（学習発表会）

## 3・4年

### ウミガメを一湊に よびもどそうプロジェクト

- ① ウミガメのふ化学習
- ② ポスター作成
- ③ 一湊区長との町歩き
- ④ ESDグローバルアドバイザーの授業
- ⑤ 参加型ゴミアート（学習発表会）
- ⑥ 奈良市立鼓阪小学校オンライン交流
- ⑦ EXPOスクールキャラバンの授業
- ⑧ 一ツ浜清掃

## 5・6年

### 屋久島の自然や生き物を守り、 発信しよう

- ① 一湊区長との町歩き
- ② 一湊川の調査
- ③ 地層見学
- ④ 一ツ浜のゴミ調査・ゴミ拾い
- ⑤ ESDグローバルアドバイザーの授業
- ⑥ ウミガメリーフレット作成
- ⑦ シーグラスアクセサリー交換事業
- ⑧ 一湊紹介動画作成
- ⑨ 鹿児島市立前之浜小学校オンライン交流



## 【まとめとこれから】

子供は、自分の意見を発表したり議論したりする力が身に付いた。さらに、知識を身に付け課題を立て、単純に解決できない課題に対して協働しながら問題解決のアイデアを出し合い行動することができた。また、校内の取組に留まらず社会に参画しようすることができた。これからも、児童自身が課題に気づき、考え、行動できるようにするとともに、屋久島の良さを見つけられるような実践に取り組みたい。



屋久島町立  
一湊小学校